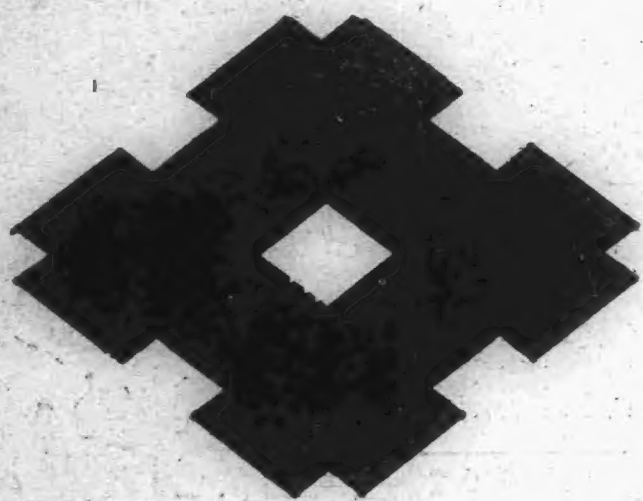


祝町三白庵 電話(3)三六六三





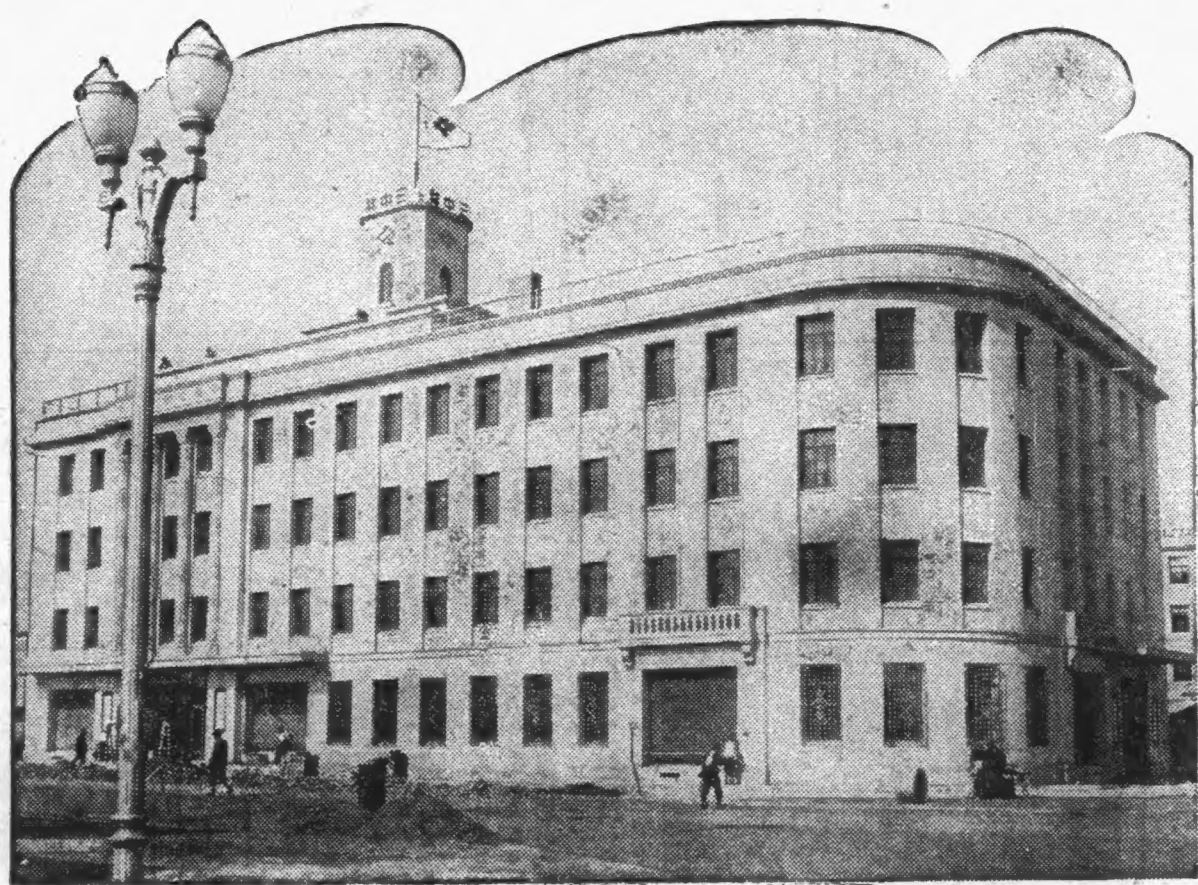




# 皆様理想の百貨店

愈々二十三日開店

絶大なる皆様の御聲援により後旬日に  
にして華々しく開館し得ますことを新  
に感謝致します。待望の日!! 歡びの念願  
館びらき、これぞ全員赤誠奉仕の念願  
のもとに待ちに待った日で御座います  
来る二十三日!! 計畫はすでにになりま  
した。  
はちきれそうな愉快をグツト押へて  
懸命に準備を急いで居ります。  
思ひ切ったサービスの数々、  
生彩演る催し物の様々、  
山なす奉仕品の種々、  
何卒刮目して御期待下さいませ。  
そして開館の其の日は是非御來駕の  
榮を賜ります様茲に謹んで御知らせ  
申上げます。



三中井

祝三中井百貨店

竣功御開店

合資 清水組 會社

本店 東京市京橋區寶町二丁目一番地

滿洲支店 大連市眞弓町五番地

新京營業所 新京八島通り二十二之一番地

在滿出張所 奉天、鞍山、營口、吉林、ハルビン

牡丹江、チ、ハル

支店 名古屋、京都、大阪、九州、京城

台灣

出張所 金澤、神戸、廣島、高松、小倉、熊本

鹿兒島、釜山、横濱、熱海、新潟、仙

台、函館



になつて良薬を考へなくなり  
たべる物も澤山喰べる。同時  
に又女中を働かせて運動不足  
にもなりますから、喰べた物  
が十分に消耗されず、體に溜  
腺の卵巣からのホルモン  
分泌が衰へて來ます。さう  
すると、體内にある多くの内  
分泌腺はお互に連鎖狀をなし  
るものですから、ホルモ

二五 家庭メ  
四〇 経済市況  
四五 東京  
五九 報  
ニユス 東京

書

建國演説  
青島風暴  
鬼頭家私  
佐門寺

○一 經濟市況  
(レコード)の演奏

げに平家は這上る花火か、お船一艘運ぎ密かに着、義経諸將を従へ、要こそ高しと見えてあらば、細かに商ひの丸の園を立て上げが、これ討つてと招きけり、禁止や吾をへ、一笑に射止む計略儘くも亦悪賢なり誰か射止す者やら、數人の人に推さずへ、罷り出たる若武者は、花も番の十七夜下野

男ましく、一鞭さつと霏入

矢綱に命を落し げざ

(寫眞は錦織さん)

げさくと聞かするし  
 御徳化山坂  
 も参りたま  
 幕星空に、うす雲  
 やそそきた夜明け  
 星  
 夜が明けた。寺の  
 坊主やお願のおか  
 が明けた。

本務部向敬室あり  
 中央郵便局  
 満  
 鮮  
 ビル  
 電（一）四九五八番  
 タイプライター印  
 書、魏読、文章立案  
 一般代書  
 脱町二一四（六千室）  
 新満社  
 電、二三八七番  
 速迅切一扱取

認公

3  
1  
1  
1  
1

淡路丸  
五日十五日、廿  
午後四時發  
長崎 鹿兒島  
一等 二四圓  
二等 一七圓  
三等 一四圓  
近海郵船  
滿洲主要及及ビエールにて九州各港行船運通切實を發賣致します



川内堯

十月一日 新京での私の最後の一日とて、私は仕度と、西四條まで馬車に乗はりました。

監督は決意を、主演は憂鬱な表情をして、詳しく報告する気持はない。流れゆくものの一面について記されたところ、空想的な草草が出来上らなからである。

この映画は歌に入つて女たれを便しての群衆指揮、は、驚嘆すべきものがある。しひたげた生活の苦悶、風沙のやうな地帯の旅、寒冷等の自然の害とたたなへて行く一帯人民たち、その様相が逼るまいと精神でブルムの上に寫取られたもの。

「逃亡」それはつづき、貧困の避難の愚かであつた映画の一種、決着のなまををつけて了結してゐる。

[illegible]

つたものであるが知れないが、  
 恰も此の頃が爲寫眞で見てゐる  
 成都の都りのそれやうな  
 家園に立ち並びがゐる。その  
 一やうな地方小都市の、資本  
 主義の侵入も、又、常例の如く  
 である。要領よく攝成し出さ  
 れてゐる。やがて終りの日が  
 来る。晴雨。晴。その服は  
 の裾で競争が起つのである。  
 この細工の技巧も當を  
 いと

草原は素朴なめたり車轍  
 きたり  
 君と二人語りつる歩む原の  
 君に秋入りたる蜂の鳴く  
 又、雪冷氣増したる雨音  
 電氣スタンドに集ひし虫も  
 聴く

雨音おのずともゆくり  
 今宵は寝がたし床に

李寶嘉作  
大內隆雄

中もやはり眞實の淵源とい  
 もを持つてゐないのとい  
 莊大人は言つた。  
 「統制人は何んでお前達  
 の錢ならに眼を付けられるこ  
 とがあらうて大人が出發され  
 るといふ時に、幾つもの萬民  
 と考へてゐる、人数が多  
 くて見る事を防禦せしめる

のぢやなれど、かゝ一人あんな幾文  
のしん當りはせん！」  
みんな大衆を聴いて又一  
齊に叩頭し、大老爺の恩とて  
言つて謝し、それからつて  
書物を奪ひ取り、更に旁觀者  
を添へて出た。

最初の組が舞臺と、更に  
後の大群が、。彼の組通

を怕れ、例の二人の武士す  
の兩旁で來させた。それから  
の兩旁でして何人かの兵士  
老り達に齊に大廣間を渡  
て來ると言つた。先づ動  
かに向つて置めたのだとな  
今では官を全うした  
「今は此處まで」は語らば  
限に過ぎぬ。大衆たちは、  
書を放ちたるのに、驚愕と種々様々

## 福島村路

拓きたるはかりの山や菊の花  
體馬の荷に晉唐辛子支那太根  
伸びて來しパス隣道や黎の秋  
黍の葉のふれ合ふ音や霧はゐる  
魚籠さげておくれ行く子や秋日和  
ほづきの庭に子等來て秋晴るゝ

街路樹に秋めく風となりけり  
糞虫に秋めきけり風の苑  
吉林は霧の都秋の風

を飲むわれをたずねるひとは  
をらぬか

おそひくるそのまぎしきや通  
たりと今宵も酒を飲まはじめ

平

新京中央通

試験近き舎に明々と夜学の灯  
同  
玻璃窓のわが影を前に夜學せ

前庭の一瞬も立ちどまらぬやうに歩み、  
 りて、月を上げてゐたさうともなく  
 てわれ街頭を歩めば、影を落し  
 りて月高く更けて闇のかげ黒黒  
 と空の一角を占めてゐるを  
 月高く小さくなり、夜はけり  
 月余り高く、闇はさへ覆りゆく  
 雁の姿を眼に追ひてひさし

示し出せないのだ。誰にしろ  
が勝手なり人殺めたりな  
んかするのを放つて置けると  
思はずな。どうしてわたし  
が通中を助けてやうと申し  
な。通中は上を怕ねて承諾し  
ないのだ。承諾しないのふか  
わに人を捉へさせよ。その無  
告を憐れみさせやうとふのだ  
これはひどいぢやないか、わ  
しは彼通中を可哀らしいと思  
つて、それ通中のために一  
つ方法を考へて、卑しに

す」とつた。年老りの通中もま  
た、青天大老爺と敬慕し  
たのであつた。  
そこで莊大人はやつと官道  
を本調子に返し、兩旁子に導  
れた。

「君たち二人は身邊門に入  
つて居る以上、屋上家の法度  
といふものを心得て居るであ  
らう。今度はぜひとも眞實實  
証を呈し上げて、君等兩卿の  
罪を免れ、なほ本官を免職さ

ないでなくてはなし、その上  
通中に集れらなかつた。こればかりは  
お前にも難題の目録にゝ讀む  
といふ氣持が通へてゐる。

蘭子に聲を掛けて

「老父堂がその本意に於てし  
て下さった事は、水戸に民  
を子の如く愛されるもので

らさなければならぬ。

蘭子に顔をあかめ、一  
句も返が出来る。そこに坐  
つて眞實の原形をうにひる  
む。此の眞實の原形に内づつて  
言つた。

「君は、はなはだ年老者だ。  
俗言に『老翁上毛無』の事を  
行つたやうだ」といふ。君

土手に國なしその尊に翫て詩  
を吟するわびしき幸をもちし  
吾かな  
草の腰を揺る風ありき野を行  
きて撫子の花を摘みためにけ  
かな  
御散るばかりとなりしベンチ  
街へ向く散歩の足や御散る  
同  
同  
後下二葉る野忌犬や秋の月

わが瑣ひたなげかむと来し野  
邊に余りに咬きそふとりど  
りの花

花もよわがさびしさをなく  
まよと磯はあちこち野邊を  
さまよふ

野邊に來にひた鳴き續く虫の  
音に心すずみせざびしきが爲

心を鳴さず何ものもなき野  
心に鳴きつゝ虫も我もまた  
悲し

絶へたに思ふ身もよめるの  
今更なる

今年またなすこなくて柳散  
る

早苗

こほろぎのふと耳に入る夜  
物乞の音に待たし秋の雨

石菖蒲

秋雨や傾いある川流儼鬼  
の

夜なべする毬の傍へに夜學  
かな

同

大いなる校舎の隅の夜學かな

秋光  
 (吉林)  
 福島村路  
 拓きたるばかりの山や萩の花  
 體馬の何に背唐辛子那大根  
 伸びて來しバス隨道や萩の萩  
 菜の葉のふれ合ふ音や露はるる  
 魚鰯さげてゆれ行く秋日和  
 是まづさへ庭に子來るて秋晴るゝ

きびしさなりち追はれつゝ酒  
 君と來て何處にむ野は廣し  
 そして一面鳴き續く虫  
 物乞のぬかづいてあり散る柳  
 もみぢ  
 南風

街路樹に秋めく風となりけり  
糞虫に秋めきけり風の苑  
吉林は霧の都秋の風

を飲むわれをたずねるひとは  
をらぬか

おそひくるそのまぎしきや通  
たりと今宵も酒を飲まはじめ

平

新京中央通

試験近き舎に明々と夜学の灯  
同  
玻璃窓のわが影を前に夜學せ

前庭の一瞬も立ちどまらぬやうに歩み、  
 りて、月を上げてゐたさきともなく  
 てわれ街頭を歩めば、影を落し  
 りて月高く更けて闇のかげ黒黒  
 と空の一角を占めてゐるを  
 月高く小さくなり、夜はけり  
 月余り高く、闇はさびやかに  
 雁の姿を眼に追ひてひさし

示し出せないのだ。誰にしろ  
が勝手なり人殺めたりな  
んかするのを放つて置けると  
思はずな。どうしてわたし  
が通中を助けてやうと申し  
な。通中は上を怕ねて承諾し  
ないのだ。承諾しないのふか  
わに人を捉へさせよ。その無  
告を憐れみさせやうとふのだ  
これはひどいぢやないか、わ  
しは彼通中を可哀らしいと思  
つて、それ通中のために一  
つ方法を考へて、卑しに

す」とつた。年老りの通中もま  
た、青天大老爺と敬慕し  
たのであつた。  
そこで莊大人はやつと官道  
を本調子に返し、兩旁子に導  
れた。

「君たち二人は身邊門に入  
つて居る以上、屋上家の法度  
といふものを心得て居るであ  
らう。今度はぜひとも眞實實  
証を呈し上げて、君等兩卿の  
罪を免れ、なほ本官を免職さ

ないでなくてはなし、その上  
通中に集れらなかつた。こればかりは  
お前にも難題の目録にゝ讀む  
といふ氣持が通へてゐる。

蘭子に聲を掛けて

「老父堂がその本意に於てし  
て下さった事は、水戸に民  
を子の如く愛されるもので

らさなければならぬ。

蘭子に顔をあかめ、一  
句も返が出来る。そこに坐  
つて眞實の原形をうにひる  
む。此の眞實の原形に内づつて  
言つた。

「君は、はなはだ年老者だ。  
俗言に『老翁上毛無』の事を  
行つて来たのだ」といふ。君

中心地の國を呈し東洋に宗教會議の氾濫時代が現出しやうとしてゐる、即ち昭和十三年には全日本佛教青年聯盟主催の第三

回世界キリスト教學生聯盟主催の世界大會が日本に開かれ、更に十五年には世界佛教大會が計畫されてゐると共に萬國宗教大會も東京に開催される可能性が太いにあるので宗教關係者は今から計畫や準備に大意である

▲滿洲の發明（九月號）  
加藤與五郎博士「發明達」の要菜「山崎長七」「石田義孝」の緒言、六「獨己の科學」「滿洲大豆と獨己の科學」「滿洲國意匠發願出願手続」「發明用語、科學書載、滿洲州權問題」と登録の情勢、商標出願と登録の情勢、上相談等充實（大連市會、町六六、滿洲發明協會）

本社編輯宛  
宛：御座  
附成度上  
（係）

△全國農村工業發達報十月號  
全國農村工業の發達、その發展の  
所の機關誌「農村副業」から、  
農村工業へ「一見本發達所の發  
達取り完了まで」「農村工  
業取引」等の記事に掲載  
町十六ノ一、全國農村  
業品販賣所、五錢）  
△ホーム・ライオン（十月號）  
上司小淵「萬葉集」前記

井沢元彦「暗い日曜日」(岩波)  
松雄「日本映画の子役魂」(角川)  
一平廣江「江戸はいつまで  
展評」海野十三石「鑑賞家  
殺人事件」立野信之「川の  
蒼人」菊美清太第一「美代子  
殺し研究」佐々木富美男  
特異さをもつて伸びゆく  
と個性振りが知られる(へん  
京市日本橋區本町一丁目  
ホーリムライソ社 十銭)

たちはきつと信用出来る人  
 人で人を無實の罪に陥したり  
 どはしないと思ふのだが  
 いづくんぞ知らん、これ  
 の年老りは田舎に在つては  
 んなが彼らを見れば惟命是  
 聽くといふ具合であつたが  
 いまこのやうな官吏たの  
 間になり廻つた有様であつ  
 たが言ふ言葉にうなづくら  
 りで、彼に問ひつづかれる  
 然るを見合はすばかりで

莊はこれをつぶかり  
「一體何故何とも言はぬ  
だ本官は性急な人間だ。み  
なが人間を指摘さへすれば  
れで直ぐ處置するのだが」  
と繰り返すがみんなは中  
だまつてゐる。(つづく)

ナショナル



K-50  
エアー・リッパ



# National



掃除機

ナショナル

片山齒科

本館本日新到 秋耕作人・五(二)〇三

新市

質

多ト豊  
益  
三  
星

病室 内科 花柳 肛門 入院

Coffee

[illegible]


**森永ほじり茶**
 香自り慢で  
 味の良ハ
 











